

流域との連携～地域貢献活動

みずべネット・オホーツク

地域貢献活動の一環として、当社が参画している「みずべネットオホーツク」をご紹介します。

最近の児童や青少年の遊びは、TVゲームに代表されるイメージ型のいわゆる「ヴァーチャル系」が全盛であり、旧来の自然をフィールドとした「ライブ系」の遊びが極端に少なくなってきました。

そんな中、北海道網走管内において「みずべネットオホーツク」という団体が活動しています。

「みずべネットオホーツク」とは、地域住民、各企業・団体が集まって結成された任意団体で「自然を大切に、人と自然そして人と人がふれあう」ことを目的とし、各分野の専門家等の指導のもと網走管内の河川や河畔をフィールドとしてカナディアンカヌーやラフティング又は河川の水質調査や植樹等を行い、地域住民や児童等と共に自然とふれあう活動を行っています。

今回は、その活動の一端をご紹介します。



▼置戸小学校の児童たちとラ

フティングでは、常呂川

の上流域という

こともあり、山の自

然を満喫しながらの

体験となりました。林の中の川を下り、水面を舞う鳥たち

や水中で泳ぐ魚たちを見て一緒に興奮したことが強く印象に残っています。

▼津別町と千葉県船橋市との姉妹都市交流では、網走川の上流域に「かわ塾」を開き、ラフティング体験をとおして、お互いの児童たちとの交流に関わりました。

川下りの途中では、一時雨が降り雷も鳴るという天候の急変に見舞われましたが、普段の生活の中ではなかなか味わえない体験ができたことで、雨でびしょびしょになりながらも参加者の皆さんは大変満足顔でした。

最近の子供たちは、川は危険で汚いし遊べない所と思っており、事実、川で遊んだ事がない子がほとんどで、こんな体験で少しは認識も変わってくれたのではと思います。



▼女満別湖畔でのカヌー・ラフティングでは、総勢8名が乗れる大きなカヌーから二人で力を合わせて乗るカヌーなど色々なカヌーやラフト(いかだ)での体験のなかで、印象に残ったのが二人ペアによるカヌー競争です。二人の力を合わせて一番早く岸にたどり着くという簡単なものなのですが、なかなかうまく進んではくれないのがカヌーなのです。これに参加された方々は、見た目以上にカヌー操作の難しさを体験し、改めてそのおもしろさに感銘を受けたことでしょう。

こういった取り組みが、現代の若年層に自然にふれあう機会をできるだけ多く提供することで自然の大切さを感じてもらい、その思いを次の世代へと受け継いでほしいという願いを込めた未来ある活動になってくれることを切に願っています。

